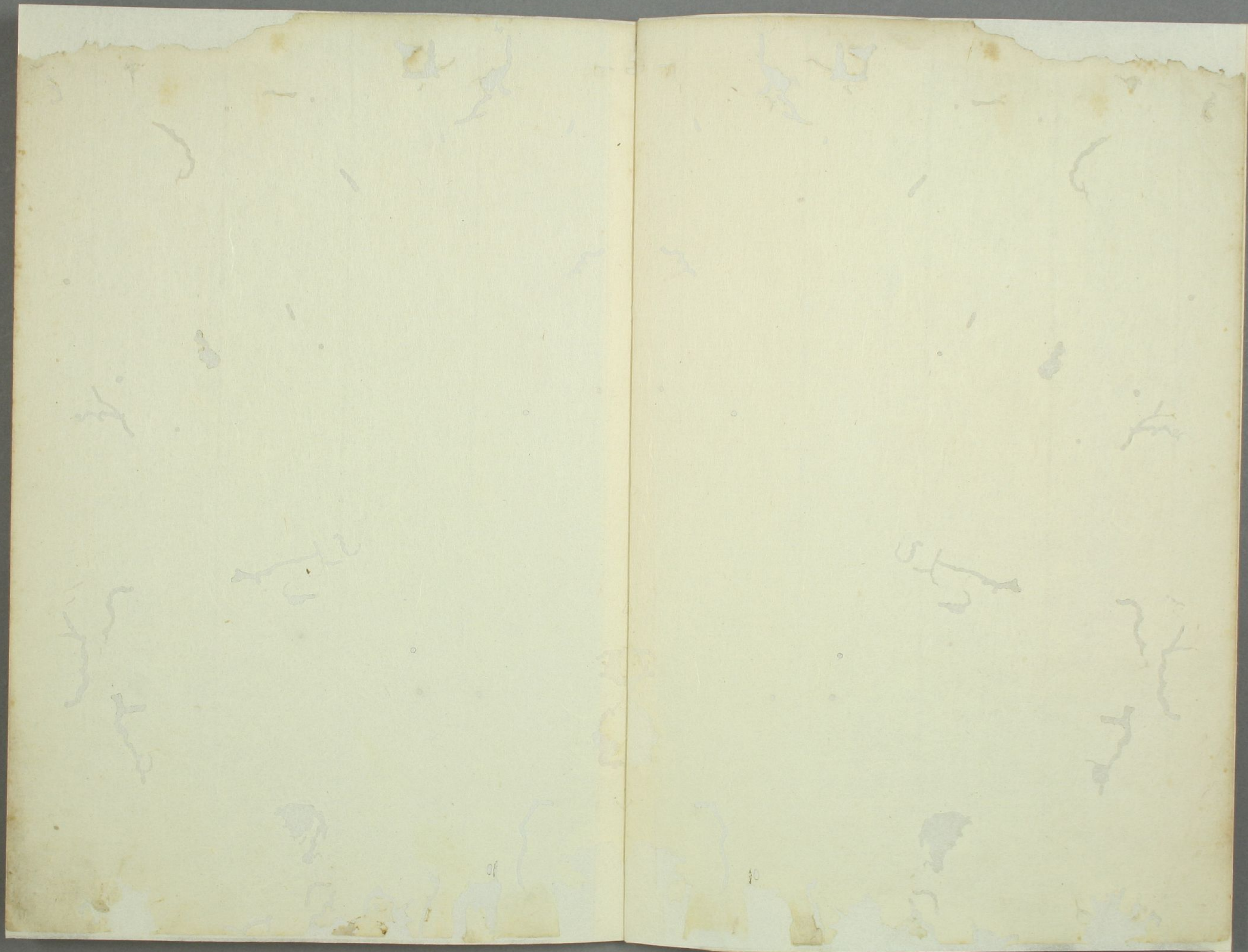


Handwritten Japanese characters on a vertical label strip, likely a title or name.

茶 (Tea)

中村俊定文庫
文庫 18
799







喜壽の山陰輪岱乃躋攀母より

よりきこい乃是故も定むる法師

阿孝名を汲古とよ一日葉靡乃采

紙訪きこる例如俳諧小をよひて家

庭へをよひて路をよひ野乃川をよ

ひ河をよひて川をよひて谷のこ

羅起をよひてよ素行くあまうかを

流るれ小管乃小草の敷く城のこ



形〜〜〜魚鱗の間の水も
〜〜〜空の雲も〜〜
水浅〜〜〜もよ〜〜
阿〜〜〜物め〜〜
〜〜〜んあふはあ

文政四己乃〜

あゆむ月の日

俳諧の道ハ貴ぶや賤〜きやと可ふ

又曰まをい〜い〜和歌の一道より何れあ
連俳〜〜世の支流をた〜た〜あ
〜〜あ〜〜来〜〜連歌の式い〜建
〜〜あ〜〜人〜〜詠い〜あ
建治の舊式應安乃新式を定め〜あ
俗言を〜〜一句〜〜狂連歌〜
和句〜〜あ〜〜い〜乃名称遠く司
馬遷り史記の〜〜近〜貫之り古今

集小志... 慶長戊戌の... 玖山公... 内奏... 仰を蒙... 都鄙... 辰霜... 萬戸子門... 授舊式... 不辯... 日... 眞... 悲歎

あし人亦... 細川玄... 法... 評... 似... 俳学... 紀... 魚... 不...

初輩の人乃かうけぬ何と云

答曰るはそれうち俗談平語をゆゑ

~~~~句敷を業に~~~~た人何門何流小

てもあれ發句を合さず先輩の人と流別

を乞ふ~~~~せう~~~~ちたに句の姿體を

~~~~の里假令六尺紙越んとあし人の

まゝに七尺をのびむらぬ~~~~あれも生

質よ~~~~海を~~~~邪路小入紙

~~~~海~~~~あ梨~~~~心飛~~~~古人の教

~~~~~~~~事~~~~只中庸を~~~~

平常れ公もち~~~~

答曰先公紙を備次~~~~我う胸中

日ち海~~~~し~~~~を思~~~~類向を考へ

~~~~初心の~~~~あ~~~~退窟

の期出~~~~新素梨其上~~~~

~~~~是よ~~~~ぬ~~~~紙

~~~~志を~~~~人~~~~

~~~~~~~~~~~~~~~~朝暮小


よきしあふ躰あけに嶮路取らむのちを
終る絶境乃預よひしむさしめし人乃
性よりまをそわ川の学苑を早く境ふり
疾人ありまをそをそそめれり一場
送ひし正統よめりむししししし
族をあらむしむしむしむしむし

連歌と俳諧乃まをそめ何と何と

答曰といふの道は連歌も一等とまをそめ
教よく俗をいしし雅も入ししむし事浅

より好む記よしし事終をいし乾坤もあはれ
何しむし終をいししむし事終をいし
下情も通しし人を得し清風朗月此れ
しむし乃しししし事終をいし

費句連句も形容詞もいしし

答曰好むし句作も季練月鍛を要しし
熟し終し熟し終し終し終し
曲も終ありししししししし
福ん終しししししししし

強阿梨 弱阿梨

景季阿季 理屋阿季 ねりー阿季

冷ーまあり 阿それ素まあり 阿それまあり

細ありあり 阿ろ阿里 人情よれ阿里

神心にまー阿里 季節たー不表小見

えー阿季 感情阿梨 何阿ー阿里

阿あり 是等の歌一葉もま迷ー阿里

まー花実乃阿川をま阿れー阿小作阿

まー阿ま阿ー阿守阿ー阿も阿阿阿

不阿阿阿阿阿阿の阿阿阿阿阿阿の阿

まのま阿ー阿乃作まの阿ま阿阿阿阿

阿阿阿阿阿阿阿阿阿阿阿阿阿阿阿

阿鬼の阿阿阿阿阿阿阿阿阿阿阿阿

阿ー多岐よ阿阿阿阿阿阿

阿素ま阿阿阿阿阿阿阿阿阿阿

答曰阿案阿阿阿阿阿阿阿阿阿阿

眼ま阿阿阿瀑布岩阿志阿阿阿阿

阿巷市阿阿阿阿阿阿阿阿阿阿

平阿阿阿阿阿阿阿阿阿阿阿阿

ふとねを流る形し東陰燈下ふよりと考へ
出しぬる句を思ふを朝小唄し如く
に句は姉も如くうと云ふたひあに妹は
ゆき陰陽此唄ありをし世ありぬれと
朝居よ考案されぬの川に佳唄を得し
はうち句をいふと形は朝一日の妄想も
く衆念をわく寸氣清快なるふよりと
こ原に句うを備次活達か
あも風骨はく教ふて

發句を工案ぬる口受ありやと云ふ

答曰流るもうは句のよし何しをのつ
あり趣向を思ひよれ時を川に一句あり
もをり抄り句をまふ五七五の詞を上中
下といふく小童久作の翻案をり時を自然
と句洞鍊磨して是句に句主あり
一作をまふと云ふとありぬるも低詳なり
陰し唇舌よはれし句を
句をのし如く自得を
其中あり

五尺のあや光小水うけあしむと記号を
くしきよ紀秀逸と出るし

耳遠き句作きいんと官ぬ

答曰いひあしむとにめつし記名目を
作さるる行法中りし家よふいよ
延子し那くも川も未練を穢やいさむ
たし月花乃句雪郭公の作素もも詞ハ
ぬらふよを公をゆきし一くあしむん
と世にみれば毎も也

縦横の題乃作意いふと官ぬ

答曰縦の題ハ詩奇小よ私乃詞と
一句れうハ小雅情を盡しそをたう作
はし横の題もさうれいあしむ
公乃すにいふあしむは句作も成
此題をもえさし曲節を考へ
し終階級をのりたしんや否

句紫よくあしむ日と類のよし

答曰日小よ句れ作らぬと記号を

阿多時多作形ううく起婦いくく
あ教魚いし片れ乃藤ふもう形く次あ
にいいこれよ飽寸婦ううくを學子い
其月く小劫つりまてむ川い支境を
いいあをいいまれ切く海邊あ
倦守教ふいい婦人終ふく崑山乃片
捨ふ骨髓ふい教へく我侍家
昂與妙句案いふく同

答曰席上探題の望小の勢いい運望沉

思なるきい見ふくし譬い當に昂妙ま
こにも形いあむまの句あり折ふれ
時不片まい一真あれハ神速を
公切くいい何かもう望お形運ふく地より
いやい心魚いい次はやいいさのれはたう
婦く如道ふあふ乃本にいい世是
句を人見見いいに公得あるい官婦
答曰師いあ人ハ廢殿添削を乞うあく后
其ま望中け人ふまもあい紙ふ

あめしをまれば鳥小視を人まれば小
つらまは道よ歩まらぬなり雅筵席上
覆句いふと尋ねればよし引墨とし
句の紙書記し満坐の人小観るし是
志乃深まらぬ家し

句はもし里題小あかすは如何に
答曰句もし里ハ五七五乃片くは好悪
屋し題をとりて案をたす譬ハ鶯を白
鳥橋を庭古草をけりけりハよきし

うす平句小き葉を星見草雪はいと不
花形と作ふハ公小満子屋し扱も句作を
花は花ハ冬月を月と其情を貫ふ餘物
をしとゆれは事ハの形を題に小入と
入る類乃扱ふ也

をのれう句小形ハむいハ事如何と問
答曰ゆくを求めは時をのまら公小形に
くよ形もしはれハ形句形ハくよ形を
ゆふハ深まらぬ假令もくよを

多難句をある——と免一東——とて観を
とある——とてのふらまを——とては戸小祝も亦と
たよと日唾し見れ、ま——とては——とて
ふらたなり將半句半月の後是を唾詳——
とてふは中——とてはふらまを——とては——とて
たよた句を得——とては時、をのれと非は見也
とて作里人公乃をよぬまを——とては——とて
——とて后一句とある是は老者小園とては
とては——とては利ある定ぬよ

心詞乃俳諧とていんとて

答曰公のふらまを撮要とては法今とては言架
た——とては——とてはふらまをぬとてはた
乃まふらま——とては也詞甚俳諧とて秀句なり
たと利只説詮ふらま——とては法類ありた句作
の習、ま——とては法——とては強まをぬとては法し
たよた強記境よりとては福れ多とてはた
姿情乃作のおれを妙境といふは乃とてし
とては——とては

意のいふ新古といふ意味ありやと問ふ

答曰先哲の説も新古ははつひとけつし
いふ作詞のききつれも情乃
す起句のみの何う見ゆまもし聞ゆ
やあゝあやう情乃あ何句も詞と
もあゝこれも作者はあゝもあひ合
ぬるや時ふあゝ難く不易乃功何
ハ新くもあは

俳諧ハ軽ぶふも人もまゝ重くはあ

まも部と可也

答曰句の如くあやうも月雪乃何
述山水のまゝなる感也感情を盡し
人乃心をうへるをわきまをいれ
とよみははは意の如くも人
層々發句の成るし風景を起る
あひあはれとあはれ不見也
風雅小志何れも晩學と號し一日を
空しくする輩あま何と同也

答曰楚志乃つゝ形文よ梨以不詞あふ
るし專に宋の杜衍を六十かゝ毫
法を學ひ王義之の五十三よりて筆を
紙と布家隆郷を四十をえり作者の
名を得るは頼阿を六十紙踰り奇道
の布まれ世ふきく多里起朝は道をきく
如教りしは法を琢磨し縱使如以彖
測海焉
附句乃公得しつゝと官好

答曰連句ハ前句の情ふし入る公を戀
山溪水よ何をいゝ思城勝地良景なり
し法しより趣向をいゝめ三句のわら
けも観るし一付公乃過不及を御し
るる句を繕ふもいゝゆゝ世に形
於のいゝ事也

点取と号して甲乙をいゝるも如何なる
答曰當世より點取運生疵識判あり
類市よりいゝる巷小あしより貴くれく賤

と形勝劣成何〜其ふいふ形交世より其
餘風や〜其嫌ふ〜にあり〜句作
口よあり俳杖胸中た〜其〜母
〜是亦一真なる〜其〜母
其始原此意味口授作法其〜け
其〜記臆よ〜其〜母
流行人其始多〜其〜母
〜其〜母判者小〜其〜母
〜白花の春乃胡其〜其〜母
其夕其〜其〜母
の〜其〜母

連句小句去の控ありや〜其

答曰は〜合〜句其善悪其論〜其後乃
詮義あり〜其合其變化の道理なり
其其其を其〜其変化乃不自在あり
より世〜其合其控あり句去其其
其〜其穿鑿寸其を附句仕あり其
其不真乃其其〜其合〜其

いふれんより句者といふれよといふゆゑに
乃格言也

已達と未達と付句如何と問ふ

答曰是ふ如き人の付句も他人書中の
む川中〜海〜も如く〜すゝた〜は
揚弓如的の如く〜も如く如くし二間
之三層も如く〜はあれ〜も〜並りた
矢如く付句も〜如く〜付〜〜見也
是をよ〜前句よ入〜味〜

婦〜き〜色〜歩〜業乃連句も親族
中何〜紫〜い〜仰揚弓如を修し
多如矢如〜的乃側ち〜如れも
〜は〜如矢あり付味を〜
前句よ〜如〜〜如〜
〜も前句よ〜を考れ〜
あま愛よを附〜

機嫌と不事如何と問ふ
答曰機嫌と不事如何と問ふ

之丈長片菴いす其妙りし時股
小錐をさせ願中繩紙うちよと朝
夕母法しきまゝに於てしとて紙今
法師乃官よとれと忘草の生
おむとるを好しひまも行くよ
すうとあるも初と川乃導師師と
無事孝なりし

閑樂坊其香



